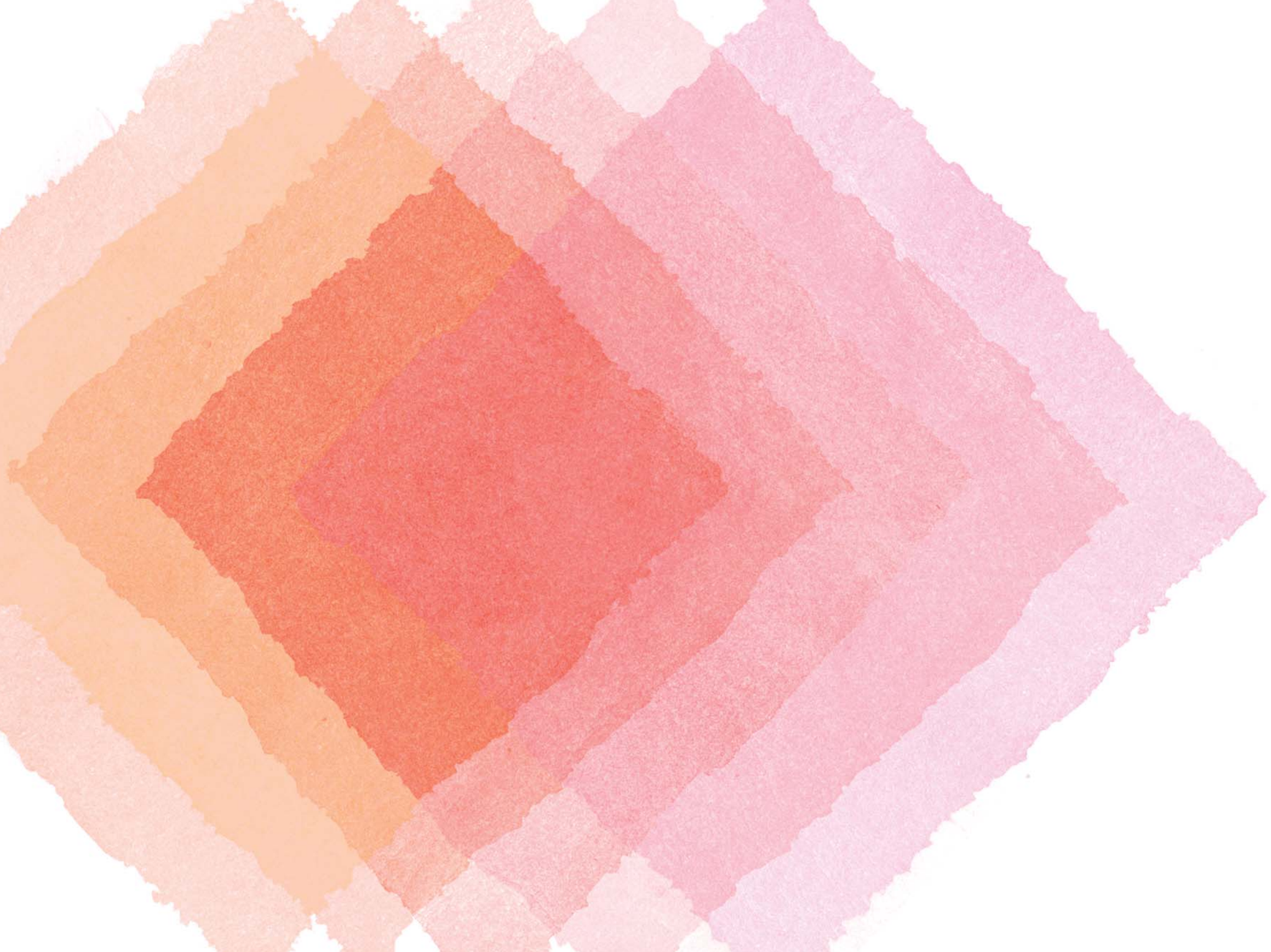
東日本大震災
復興フォト＆スケッチ展 2014
作品集

復興の歩み ～いとなみ、絆、再生、希望～

街に、ルネッサンス
UR都市機構

一日も早い東北の復興へ
全力で取り組んでいます



復興の歩み ～いとなみ、絆、再生、希望～

ごあいさつ

東日本大震災から間もなく4年を迎えようとしています。

UR都市機構は、発災直後より被災地へ職員を派遣し、

被災された皆様が一日でも早く安心した生活を送れますよう、復旧・復興活動に取り組んでまいりました。

各地で復興事業は本格化し、復興に向けて着実に歩みを進める人々やまちの様子を

垣間見ることができるようになりました。

このフォト&スケッチ展は、これまでの復興への歩みを広く発信することで、

全国の皆様に被災地の様子を知っていただくとともに、

被災された方々にとって希望を感じられる場になればという思いで、

今回初めて開催したものです。

「復興の歩み～いとなみ、絆、再生、希望～」というテーマのとおり、

復興へ向けて動き出すまちや暮らしの風景の中に、

強いメッセージが込められた作品を全国から多数お寄せいただきました。

多くの皆様からの作品応募に、心よりお礼申し上げます。

目次

UR都市機構の復興支援　04

フォト ＆ スケッチ展概要　06

審査員プロフィール　08

受賞作品・応募作品の紹介　10

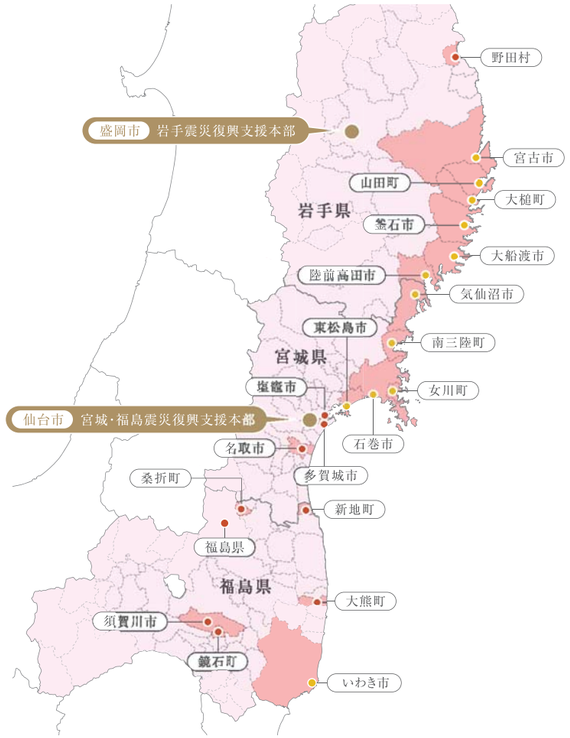
- 復興の歩み大賞　フォト　12
- 復興の歩み大賞　スケッチ　14
- 復興の歩み賞　16
  （大西 みつぐ・千葉 学・なかだ えり・池邊 このみ・UR都市機構 選）
- 入賞　26
- 応募作品　34

審査の風景　38

- 受賞者および有識者審査員の敬称は省略させていただいております。
- 受賞作品の紹介内容は原則下記の順で掲載しております。
  作品タイトル／氏名／撮影・スケッチの対象場所（県、市町村）／メッセージ
- 応募作品はトリミング加工の上、掲載しております。

UR 都市機構の復興支援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。
UR都市機構はUR賃貸住宅や応急仮設住宅建設用地の提供、応急仮設住宅建設のための職員派遣など震災当初から支援を開始。
続いて、被災自治体における復興計画策定支援等のため職員派遣を行いました。
現在では、22の被災自治体と協定等を締結し、現地体制を強化して復興まちづくりの支援を行っています。



復興支援ＭＡＰ

UR都市機構は、岩手・宮城・福島の計22の自治体で
復興支援に取り組んでいます。

宮古市

南三陸町

山田町

女川町

大槌町

多賀城市

いわき市

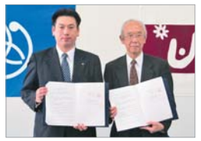
● 《 震災復興支援本部 》 事業の統括、設計、工事発注、契約手続きを行います。
● 《 復興支援事務所（12箇所）を設置する自治体 》 現地に事務所を設置し、市街地整備、住宅整備を推進します。
● 《 復興まちづくりを支援する自治体 》 主に震災復興支援本部を拠点に、市街地整備、住宅整備、事業コーディネート、人的支援等を行います。

復興まちづくり支援の歩み

東日本大震災発生

平成23年4月 岩手県下への 派遣開始	平成23年7月 宮城県下への 派遣開始	平成23年11月 福島県下への 派遣開始	平成24年4月 現地に 専任チームを配置	平成25年4月 現地復興支援 事務所を設置	平成26年4月 仙台・盛岡に 震災復興支援本部を設置
URの現地支援体制 17人	37人	59人	172人	303人	400人

いわきニュータウンに建設された
応急仮設住宅


女川町とパートナーシップ協定を
締結（平成24年3月）

権利者約1800人を対象に
約50回の住民説明会等を実施（女川町）

安全性の検証と宅地完成の前倒しを
目的に実施した試験盛土（陸前高田市）

■ **復旧支援**

ＵＲ賃貸住宅延べ970戸の提供。
応急仮設住宅建設用地約8haの提供。
延べ184名の技術職員を派遣。

■ **協定締結**

22の被災自治体との間で、
復興まちづくりを推進するための
覚書・協定等を締結。

■ **事業計画策定**

住民説明会や個別面談を通じて、
住民の方々の意向を確認し、
個別地区の事業計画を作成。

■ **工事を加速し、一つ一つ着実に事業を完成**

平成25年度末までに、
受託した22地区すべての
復興市街地整備地区で工事に着手。
災害公営住宅は、
平成27年1月までに989戸が完成。

■ **復興計画策定支援等**

1県18市町村に延べ59名の技術職員を派遣。

■ **体制づくり**

沿岸部の12市町に現地復興支援事務所を設置。

復興市街地整備事業

土地区画整理事業、防災集団移転促進事業などにより、
被災した市街地の嵩上げや高台新市街地の整備を行います。
UR都市機構は被災自治体より委託を受け、
計画策定から工事発注・監理までフルパッケージで事業を進めています。

重ダンプによる造成工事（東松島市）

大量土の搬出のため設置された
ベルトコンベヤー（陸前高田市）

災害公営住宅整備事業

被災により住まいを失われた方、原子力災害により避難を余儀なくされている方の
ための公営住宅を整備します。UR都市機構は被災自治体からの要請により
住宅を建設、完成後に自治体へ譲渡します。

桜木地区（多賀城市）

大ケ口地区（大槌町）

復興まちづくりコーディネート業務の実施

被災自治体からの委託により、UR都市機構はまちづくりの実績や技術力を活かし、
復興まちづくり事業計画策定業務、工事発注支援業務等を実施しています。

工事発注支援の相互協力協定締結（大槌町）

フォト＆スケッチ展概要

作品審査について

東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2014は、復興への歩みを広く発信することで被災地の復興を支援するため、「復興の歩み～いとなみ、絆、再生、希望～」をテーマとして開催しました。

応募作品は、復興を感じる場面を題材とした写真、またはスケッチとし、皆様の被災地や復興に対する想いを、タイトルとメッセージで表現していただきました。応募資格は、できる限り多くの方々に参加していただくため、被災地にお住まいの方だけではなく、被災地を訪問された方やゆかりのある方等すべての方を対象としました（プロの写真家や画家の方を除く）。

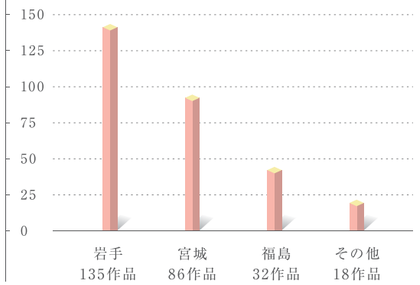
約4ヵ月の受付期間を経て、132名の皆様から、271作品（写真252作品、スケッチ19作品）のご応募をいただきました。

その中から、規定審査と事務局審査を通過した222作品（写真206作品、スケッチ16作品）について、4名の有識者審査員（以下、審査員）による審査とUR職員投票により、復興の歩み大賞2作品（フォト・スケッチ各1作品。審査員による協議により選定）、復興の歩み賞5作品（各審査員1作品。UR職員投票による最多得票1作品）、入賞15作品（UR職員投票による上位作品）を選出しました。なお、審査過程では作品の応募者名を無記名とし、写真やスケッチの内容に加え、タイトルとメッセージを含めた総合的な評価をさせていただきました。

スケジュール

2014年 3月28日	開催予告
2014年 5月16日	開催発表
2014年 5月16日 ～ 9月24日	作品応募受付期間
2014年 9月 ～ 12月	応募作品の審査［ 事務局審査、UR職員投票審査、有識者審査 ］
2014年 12月25日	審査結果の発表

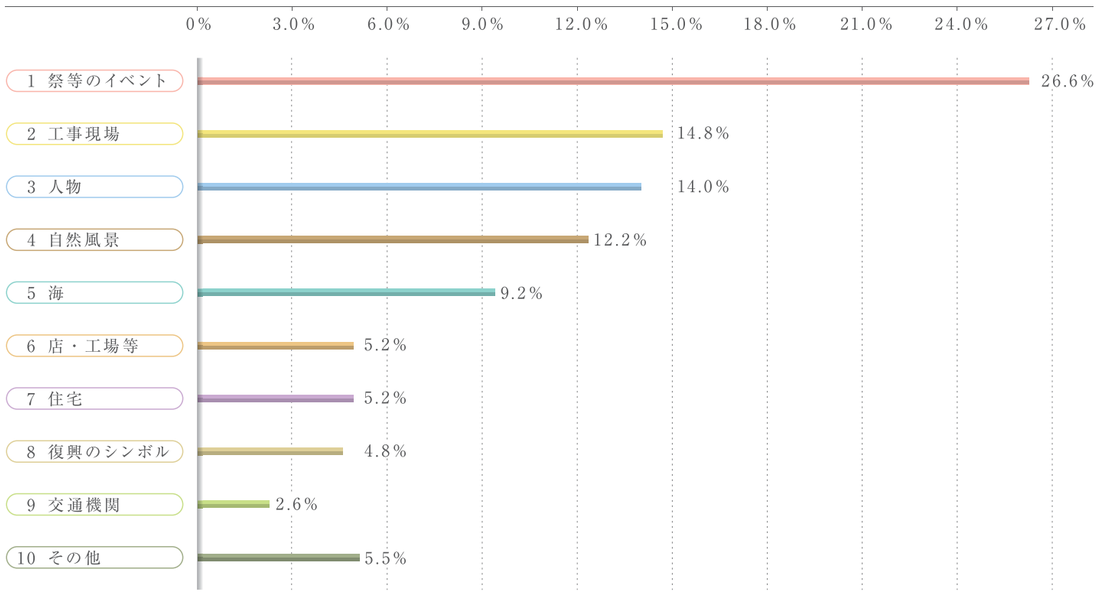
応募作品における県別作品数



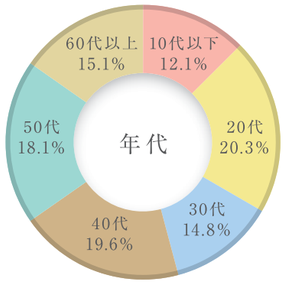
撮影・スケッチの対象として多く選ばれた場所

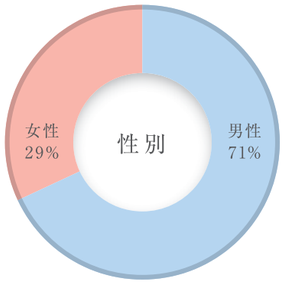
所在地	作品数		
岩手県陸前高田市	51 作品	福島県いわき市	16 作品
岩手県下閉伊郡山田町	23 作品	岩手県釜石市	15 作品
岩手県宮古市	19 作品	岩手県大船渡市	13 作品
宮城県気仙沼市	19 作品	岩手県上閉伊郡大槌町	10 作品
宮城県牡鹿郡女川町	18 作品	宮城県東松島市	10 作品

応募作品の分類



応募者の属性





審査員プロフィール

大西 みつぐ氏
写真家

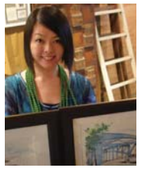
Mitsugu OHNISHI
Photographer

東京綜合写真専門学校卒業。1985年「河口の町」で第22回太陽賞、1993年「遠い夏」ほかにより第18回木村伊兵衛写真賞受賞、江戸川区文化奨励賞受賞。1970年代から東京の下町を拠点として撮影活動を続けるほか、大学や専門学校などで若い世代を指導、また各カメラ雑誌において記事執筆、月例コンテスト審査員を歴任するなど写真愛好家へのアドバイスも積極的に行なっている。日本写真協会、日本写真家協会会員、ニッコールクラブ顧問、大阪芸術大学客員教授。

千葉 学氏
建築家

Manabu CHIBA
Architect

1985年東京大学工学部建築学科卒業、1987年同大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了、株式会社日本設計、ファクターエヌ共同主宰を経て、2001年千葉学建築計画事務所設立。2009年-2010年スイス連邦工科大学客員教授、現在、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。主な受賞に第27回村野藤吾賞（工学院大学125周年記念総合教育棟）、ユネスコ・アジア太平洋遺産賞功績賞（大多喜町役場）、2009年日本建築学会賞（作品）（日本盲導犬総合センター）など。



なかだ えり氏
イラストレーター

Eri NAKADA
Illustrator

日本大学生産工学部建築工学科卒、法政大学工学部建築学科修士課程修了。フリーランスでイラスト、執筆、建築設計など多分野で活動中。東京・千住にて築200年の「蔵」をアトリエとしてきたが、2014年より元スナックをリノベーションした建物に拠点を移す。千住の古い建物を活用する活動に参加。著書に「駅弁女子～日本全国旅して食べて」（淡交社／2013年）、「奇跡の一本松～大津波をのりこえて」（汐文社／2011年）、「東京さんぽるぽ」（集英社／2010年）などがある。「奇跡の一本松～」は2015年～2018年度の小学校の道徳の教科書に掲載予定。

池邊 このみ氏
ランドスケーププランナー

Konomi IKEBE
Landscape planner

千葉大学大学院教授、専門は造園デザイン学。千葉大学大学院博士課程修了、住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等をへて、現職。2007年より3ヵ年、UR都市機構の都市デザインチームリーダーを兼務。学術会議連携会員、国土交通省社会資本整備審議会委員、文化庁名勝部門審議委員、国土交通省景観賞審査委員、陸前高田市文化財保全活用調査委員長、高田の松原復興祈念公園構想会議委員、都市景観大賞審査委員、都市公園コンクール審査委員等を務める。

総評

型にはまらない表現のバリエーションに富んだ作品が多く、写真にもスケッチにもそれぞれに強いメッセージが込められていることに感動しました。この想いを持ち続けることが、我々の明日にとってたいへん意味のあることだと強く感じています。

自分自身も色々な形で復興に係わっており、現地でのちょっとした会話や些細な出来事の中に復興の歩みを感じることがあります。復興のプロセスは一言で言えるものではありませんが、それでも日常の中の小さな復興に目を向けた作品を見られたことはとても素敵な体験だったと思います。

自分が岩手県出身ということもあり、特に興味を持って拝見しました。震災からすでに4年を迎えようとしていますが、何もなくなった場所に新しい芽吹きや活動が進められていることが作品の中からも感じられ、とても前向きな一面が見られてうれしく思いました。

写真からもスケッチからもたいへんな力強さが伝わってきました。復興を前に進めていこうとする思い、自分たちの手でコミュニティを取り戻すんだ、という前向きで強い意思が込められているように感じました。たいへん素晴らしい企画に携わることができ、感謝しています。

受賞作品・応募作品の紹介

大賞

復興の歩み大賞　フォト

家族

石森　文夫

福島県 いわき市

大きな靴から小さな靴まで、なかよくならんでいる。
仮設住宅のくらしは大変だろうが、これを見ただけで家族の絆が伝わる。
きっと未来も明るいと思う。

［審査員からのコメント］

被災地での仮設住宅脇に干されている家族の靴、このさりげない日常の風景を見事に捉えた心温まる作品である。暖かい陽の光に向けて、丁寧に洗濯バサミで吊るされた靴の風景は、決して快適とは言えない仮設住宅の暮らしの中でも、家族が仲睦まじく、明日への希望を胸に毎日を生きていることを、実に優しく伝えてくれている。《 千葉　学 》

大賞

復興の歩み大賞　スケッチ

復興の槌音

吉田　征輝

岩手県 陸前高田市

私は以前のこの地の景色を知りません。今、この巨大な工事現場がどのように生まれ変わるのか想像がつきません。
この美しい海と、人々が安心して住める豊かな街の素敵な風景が蘇える日が一日も早く見られるよう、心から願っています。

［審査員からのコメント］

空中を走るベルトコンベヤーとクレーン、クレーンから運びこまれる土の様子が実にダイナミックに、また、リアルに描かれた秀逸な作品、審査員の満場一致で大賞になりました。色彩や描写のタッチが繊細で、空を貫くベルトコンベヤーが軽い構造物のように見えます。背景には、陸前高田を守る信仰の山、氷上山と一本松、素晴らしい構図です。《 池邊 このみ 》

復興の歩み賞　（大西 みつぐ 選）

鎮魂と祈り

小澤　房子

岩手県 上閉伊郡大槌町

平成２５年１２月３１日大晦日。年が明ける 2 分前の画像です。鎮魂と新しい年への希望を込められてるのが合掌した手から感じ取れました。

［審査員からのコメント］

今しも鐘の音が反響して聞こえてくるようなひと時。除夜の鐘はさらなる一年への希望と同時に震災で亡くなった方々への鎮魂。節度ある距離感から静かな祈りをとらえた一枚に、忌まわしい記憶を乗り越えて未来へと歩もうとする人々の強い意志を感じさせます。折からの照明を生かし、また周囲を微かに浮かび上がらせた点が評価できます。　《 大西みつぐ 》

復興の歩み賞　（千葉 学 選）

福島の母の絵と私

山内　若菜

神奈川県、福島県で取材

「福島の母」は、福島県郡山市のお母さんの話を聞き、絵をあげるボランティアの中で、この母の強さ、その姿を描きたい、と思って描いたものです。人々の思い、自分の思いを入魂するように描いていく、これは、私が「生きている」と感じられる瞬間でもありました。福島のお母様方が使ってくれている絵、大切な巨大な絵です。

［審査員からのコメント］

実に大きく、そして力強く描かれた「福島の母」の絵と、そこに裸足で佇む作者のなんとも言えない表情が魅力的な写真である。絵を描いた達成感と安堵感、あるいはボランティアを通じての不安と希望、様々に読み取れるその表情の奥行きと迫力ある絵との対比が福島の抱える複雑な現状と重なり合い、記憶に深く残る作品である。《 千葉 学 》

復興の歩み賞　（なかだ えり 選）

忘れられない味

酒井　崇光

岩手県 釜石市

釜石の仮設住宅で出会ったおばあさんの手。このおばあさんは、東日本大震災のことを丁寧に教えてくれて、プランターで大切に育てていたトマトをくれた。とても甘く美味しかった。早く自分の家を建てたいと言っていて、新しい家でも色々な野菜を作ってほしい。このトマトは、忘れられない味になった。

［審査員からのコメント］

この作品にはもう1枚、対になるような「笑顔で前進！」というおばあさんの写真がありました。はじめての出会いにも関わらず近い距離での交流に素直な少年と純朴なおばあさんの共鳴を感じます。仮設住宅で大切に育てたトマトをよそからきた少年にあげる。自分より人のことを思いやる東北人気質をも感じます。《 なかだ　えり 》

復興の歩み賞　（池邊 このみ 選）

蕾　　神武　桜子

宮城県 気仙沼市

瓦礫の中から逞しく生きる雑草の蕾を見つけました。「全てを失った」と言われていた地に残っていた養分で花を咲かそうとしている姿に感動しました。

［審査員からのコメント］

力強い生命力にあふれた作品です。海水をかぶった瓦礫の下から、芽吹き、蕾をつけた雑草。瓦礫をかき分けるように突出した茎。背景には被災した建築物。逞しい生命の姿に感動しました。被災地の方々が悲しみを乗り越え力強く、前へ進もうとする気持ちがひしひしと感じられました。《 池邊 このみ 》

復興の歩み賞　（UR都市機構 選）

希望の花壇

商　家訓

宮城県 気仙沼市

震災から2年3ヶ月、海水で汚染された土地を、地元の小学生達が土壌を浄化して植えられたマーガレットの花が見事に咲いていました。
バックの漁船（共徳丸）はもう撤去されていて今は見る事が出来ません。

UR都市機構の職員投票により最多得票を獲得した作品です。

入賞

消防車と少女　菊池　靖

岩手県 宮古市

三年前の震災で津波から住民を守るために己の職務を全うし殉職した各地の消防団員の方々に感謝の意を込めて撮影しました。昼夜問わず救済活動で被災した私たちを元気付けてくれた事、いつまでも忘れません。

入賞

歌声列車　有田　勉

岩手県 三陸鉄道　南リアス線

震災で寸断された三陸鉄道南リアス線、昨年部分開通で喜びを歌声列車で祝う住民。

入賞

銀色の大きなヘビみたい　竹内　豪

岩手県 陸前高田市

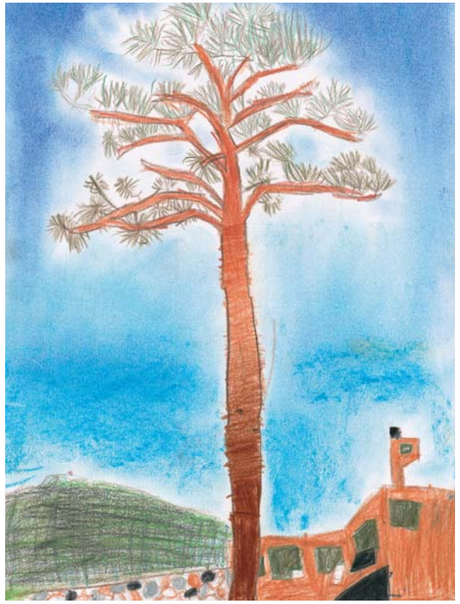
巨大なベルトコンベアで土を運ぶ工事現場を見ながら、復興事業を学びました。山を削って高台に街をつくり、削った土は低地部に盛って津波に強い街をつくると聞いて、復興事業の規模の大きさを肌で感じた様です。

入賞

夜明けのベルトコンベア　河口　毅

岩手県 陸前高田市

巨大なベルトコンベアと奇跡の一本松がお互いの頑張りを励ます様に夜明けの空に毅然と立っていた。
ガンバロー日本　頑張れベルトコンベア
ガンバレ東北　　頑張れよ一本松



入賞

奇跡の一本松　十野　花菜

岩手県 陸前高田市

私の学校の同じ学年に東日本大震災で被災して転校してきた、友達がいます。その友達から聞いた話や、テレビ、写真でしか私はこの地震を知りません。あんな津波の中、流されなかった松の木の強さに感動したのでこの木をかきました。

入賞

復興のひかり　進藤　ヒサ子

あの悪夢から早三年現地の友人よりお手紙と写真が送られてきました。復興が進んでいるといってもまだそこここに傷あとが、傍らにひまわりの大輪がりんと踏ん張っている、たくましい。きっと今は穏やかな夕暮の美しい海何事もなかったように、一日が終わろうとしている事でしょう。そうだ絵にメッセージを託そう。

入賞

寒風の中で　村上　廣一

岩手県 大船渡市

大船渡新湾口防波堤の、基礎部「ケーソン」を運ぶため、国内最大級の巨大クレーンが応援に駆け付けた。まだ低気圧の余波の残る埠頭で、復興のシンボル・セメント工場を背に、寒風を受けながら復旧に携わる、機器と人々…。市民は巨大フックの様な、強靭で強固な防波堤が、完成する日を待ち望んでいる。

入賞

山田祭りと海　唯野　睦泰

岩手県 下閉伊郡山田町

山田祭りでは、震災後初となる神輿行列が行われました。
地震によって地盤が下がり、沖にある漁船までは担いで行けなくなってしまいましたが、秋晴れの下、この日の為に町民が集まり、確かな「復興」を感じました。

入賞

「冬－大雪の山田湾」　高橋　義章

岩手県 下閉伊郡山田町

例年になく大雪に見舞われた山田町、そして牡蠣の養殖棚に降り積もった雪、まるで水墨画のような風景に目を奪われた。そんな中、大雪にもめげず養殖棚を見回りにきた一隻の船に、養殖の町で暮らす人々のたくましさを感じた。

入賞

陸前高田市初の災害公営住宅が完成　岡本　佳久

岩手県 陸前高田市

陸前高田市に震災後初めて災害公営住宅が完成しました。まだまだ復興には程遠いですが、被災者 120 世帯の新しい生活が始まります。一歩一歩復興に向けて進んでいってほしいです。

入賞

復興の狼煙　島　宏幸

福島県 南相馬市

福島県相馬地方に１０００年以上伝わる伝統行事、相馬野馬追の一コマ。かの地の武士（もののふ）は、当該被災地域の復興を担う若武者であり、その復興の狼煙を目撃した。

入賞

BRTと桜前線　大谷　桂太

岩手県 大船渡市

震災から３年を迎えた春、桜が満開となった。鉄路での復旧には至っていないが、地域の足となるＢＲＴは復旧復興を見つめながら今日も走っている。

入賞

しあわせのおすそわけ　新田　知沙

岩手県 上閉伊郡大槌町

大槌町安渡にある「こども夢ハウス」で飼われているポップのお家の前で四葉のクローバーを見つけました。夢ハウスの子供達は外出していたため、娘は手紙を残して帰りました。

入賞

復興途上の田老を背後に三陸鉄道北リアス線　嶋田　憲一

岩手県 宮古市

平成 26 年 4 月に全線再開となった三陸鉄道北リアス線。
久慈発の列車が田老駅到着寸前。
背後には、震災遺構のたろう観光ホテル、嵩上した防潮堤、高台移転の復興住宅の造成地が見える。

入賞

おいしい笑顔で、復興へ。　藤原　奈央子

宮城県 名取市

ゴールデンウィークにゆりあげ港朝市を訪ねました。炉端で焼いた手作り笹かまぼこに、横浜から来た友人家族も大喜び。まだ遠い道のりかと思いますが、おいしいものを食べながら、少しでも応援できればと思います。

応募作品
岩手

下閉伊郡山田町

釜石市

陸前高田市

下閉伊郡山田町

釜石市

上閉伊郡大槌町

下閉伊郡山田町

下閉伊郡山田町

陸前高田市

陸前高田市

下閉伊郡山田町

上閉伊郡大槌町

陸前高田市

陸前高田市

宮古市

大船渡市

上閉伊郡大槌町

釜石市

宮古市

陸前高田市

下閉伊郡山田町

陸前高田市

大船渡市

陸前高田市

釜石市

釜石市

大船渡市

下閉伊郡山田町

陸前高田市

釜石市

下閉伊郡山田町

陸前高田市

陸前高田市

陸前高田市

釜石市

陸前高田市

陸前高田市

上閉伊郡大槌町

九戸郡野田村

陸前高田市

陸前高田市

陸前高田市

陸前高田市

宮古市

大船渡市

釜石市

宮古市

陸前高田市

宮古市

陸前高田市

下閉伊郡山田町

宮城

石巻市

牡鹿郡女川町

名取市

気仙沼市

牡鹿郡女川町

石巻市

伊具郡丸森町

宮城

牡鹿郡女川町

牡鹿郡女川町

塩竈市

本吉郡南三陸町

気仙沼市

東松島市

気仙沼市

気仙沼市

名取市

宮城郡松島町

仙台市

本吉郡南三陸町

亘理郡亘理町

牡鹿郡女川町

牡鹿郡女川町

東松島市

気仙沼市

石巻市

東松島市

気仙沼市

塩竈市

牡鹿郡女川町

仙台市

本吉郡南三陸町

牡鹿郡女川町

石巻市

名取市

仙台市

東松島市

石巻市

本吉郡南三陸町

大崎市

牡鹿郡女川町

気仙沼市

石巻市

本吉郡南三陸町

気仙沼市

気仙沼市

気仙沼市

福島

南相馬市

いわき市

南相馬市

いわき市

いわき市

いわき市

いわき市

郡山市

南相馬市

南相馬市

相馬市

相馬市

双葉郡富岡町

南相馬市

いわき市

いわき市

南相馬市

いわき市

南相馬市

いわき市

伊達市

応募作品の一部を紹介しています。

審査の風景

東日本大震災から間もなく4年が経ち、被災地は復興に向けて着実に歩みを進めています。今回初めて開催された「復興フォト＆スケッチ展」には、多数の作品が寄せられ、その一作品ごとに復興への強固な意志と確かな兆しが息づいていました。まちや暮らしが再建され、新しいコミュニティが形作られていく様子、被災地の方々が自らの手で取り戻しつつある笑顔と希望。そんな作品に触れた審査員の方々のコメントと受賞作品への評価をお届けします。

大西 みつぐ氏

千葉 学氏

なかだ えり氏

池邊 このみ氏

■ 復興の歩み大賞
フォト
「家族」

千葉 学　福島県の写真ですね。暖かい陽の光に向けて、丁寧に家族の靴が干されています。さりげない日常の風景の中に家族の仲睦まじさや、明日への希望を抱いて日々暮らしていることまでも感じさせてくれます。実に心温まる作品です。

大西 みつぐ　靴が主役になっていますが、プロパンガスが並んでおり、被災者の皆さんが住んでいる環境までもがしっかり出ています。

池邊 このみ　すべての被災地の方に共感していただける作品だと思います。

■ 復興の歩み大賞
スケッチ
「復興の槌音」

千葉 学　これはみなさん一致で大賞決定ですね。

なかだ えり　決まりですね。

池邊 このみ　色彩や描写のタッチが繊細で、ベルトコンベヤーが軽々と空を貫いています。その背景に描かれているのは、陸前高田を見下ろす氷上山と一本松。素晴らしい構図です。

■ 復興の歩み賞
「鎮魂と祈り」

大西 みつぐ　鐘の音の残響が聞こえてくるような写真ですね。折からの照明を生かし、周囲をかすかに浮かび上がらせた点も評価に値します。静かな祈りの中に、過去の記憶を乗り越えて未来へ歩もうとする強い意志を感じさせます。

■ 復興の歩み賞
「福島の母の絵と私」

千葉 学　作者の何とも言えない表情が魅力的です。絵を完成させた達成感や安堵感、あるいはボランティアを通じての不安や希望、様々な想いが読み取れます。裸足でしゃがむ彼女と迫力ある絵との対比が、福島の抱える複雑な現状と重なり、記憶に深く残りました。

なかだ えり　大きくてとても迫力がありますね。

■ 復興の歩み賞
「忘れられない味」

「笑顔で前進!」

なかだ えり　この作者の作品にはもう1枚、「笑顔で前進!」というおばあさんの写真もありました。作者である少年とおばあさんは初めての出会いからとても近い距離で交流をしているのですが、それを素直に受け入れる少年と純朴なおばあさんの心の共鳴を感じました。おばあさんが仮設住宅で大切に育てたトマトをもらったのでしょうね。

大西 みつぐ　13歳という若さで、この2枚を撮れるのはすごいですよ。これはなかなか撮れない写真です。

■ 復興の歩み賞
「蕾」

池邊 このみ　「全てを失った」と言われた地に残っていた養分で蕾をつけた雑草に感動した、と作者はコメントしています。瓦礫をかき分けるように芽を出した雑草の逞しい生命力に、私も感動いたしました。悲しみを乗り越えて、前に進もうとする被災地の方々の想いがひしひしと感じられる作品ですね。

フォト＆ スケッチ展の実施につきまして、応募者の皆様及びご協力いただいた皆様に、深くお礼申し上げます。

http://www.ur-net.go.jp/saigai/

企 画・発 行　独立行政法人都市再生機構　技術・コスト管理部　都市再生設計チーム
震災復興支援室　企画チーム
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

制　　作　株式会社URリンケージ 都市・居住本部　企画設計部

2015年 3月発行

※本誌の写真および内容を無断で複写・転載することを禁じます。